



# 総合学科美術デザイン系列 日本生物学オリンピック本選 2022 鶴岡大会 ロゴをデザインしました!



デザインが採用された  
佐藤愛海さん(三年次)は  
ロゴのプレゼンテーションを行いました。

## 鶴岡で日本生物学オリンピック

### 全国のスーパージニア中高生集う

生物学の「スーパージニア」中高生が集い難問に挑む全国大会「日本生物学オリンピック」本選2022が鶴岡大会が17、18日の3日間、鶴岡市の市先端研究産業支援センターと県立鶴岡中央高を会場に行われた。予選を通過し全国から集まった若き精鋭たちが、理論と実験問

全国から集まった中高生たちが日本生物学オリンピック本選で理論問題に臨んだ。17日、鶴岡市先端研究産業支援センター・レクチャール

題で知識を競った。

国際生物学オリンピック

日本委員会が主催し、大学

入学前の20歳未満を対象に

毎年実施している。本年度

は約3500人がオンライン

予選に参加し、成績上位

80人(うち中学生3人)が

本選に進んだ。県内からの

本選出場者はいなかった。

17、18日に理論と実験の大

問3題(約2時間ずつ)に

挑み、19日に成績発表の閉

会式が行われた。生物学全

般に関する高度な理論試験、

実験動物の胚の移植やRN

A(リボ核酸)の濃度測定、

酵素活性を利用した乳酸量

測定など実験試験があった。

総合と理論、実験ごとの

成績上位者に特別賞が贈ら

れたほか、総合1-10位に

金賞、11-20位に銀賞、21

-40位に銅賞が贈られた。

高校2年生以下のうち上位

12人(うち中学生1人)が

来年の国際大会の日本代表

候補に選ばれた。

鶴岡大会は2年連続で、

昨年はオンライン実施とな

り、全国大会の現地開催は

東北初だった。同市の慶應

義塾大先端生命科学研究所

がホスト機関として大会を

運営。大会のロゴは鶴岡中

央高3年の佐藤愛海さん

(17)のクラゲや顕微鏡、微生物をモチーフにしたデザインが選ばれた。大会中は出題解説や、鶴岡の生物にちなんだ加茂水族館、自然学習交流館ほどりあの体験ツアーも行われ、生物学のスーパージニアたちが鶴岡の地で交流を深めた。